

令和7年度「函館漁港地域活性化プロジェクト」について

北海道開発局 函館開発建設部 函館港湾事務所

函館港湾事務所では、北海道教育大学函館校の学生、函館市漁業協同組合、建設会社、実業家と事務所若手職員がチームを組んで、「函館漁港を核とした函館西部地区の活性化プロジェクト」を立ち上げ、令和8年10月より、月1回ワークショップを開催し、2月23日に今年度最終回となる第6回ワークショップを開催しました。

活動拠点となる函館漁港は、市電で「函館駅」から最寄り駅である「どっく前」を経由して20分ほどの位置にある「街に近い漁港」です。

「函館名産のイカ」を水揚げしており、港内には歴史的土木遺産である「船入潤防波堤」があります。周辺には古寺・古民家などもあり、函館山を望む港内は、夕映えに照らされると更に景色が良く、写真を撮りたくなる素敵な場所です。

近年はイカの水揚げも減少し、周囲には空き家も目立つ漁港となってきていますが、前述の好条件を活用しながら函館漁港の活性化策をワークショップで話し合ってきました。漁港をテーマに「フォトコンテスト」の開催や、漁港内での子供もOK「手ぶら釣り体験」、「食育体験」「漁港コンサート」などのアイデアが、第5回までに出ていました。今回は最終回のため、これらを通じて「将来どんな函館漁港にしたいのか」をキャッチフレーズで表してもらいました。「函館漁港で遊ぼう」「隔たりを無くして親しみやすい場所に!」「漁港に来る人を増やそう」というキャッチフレーズが各班から提案されました。

それらを実現するため、函館漁協組合長の意見なども伺いながら、来年度に向け複合型イベントを実施し、様々なリスクや、漁港の可能性を検証していこうと来年度への意向確認をして終了しました。

安全に、漁師と市民と観光客が、交流できる拠点を目指し、来年度は、より一層関係者と協力しながら活動を進めていきます。



第6回ワークショップの様子



函館漁港から望む函館山



函館漁港から望む夕日